

教育学部附属学校園

教育学部には、附属学校園が高松と坂出の両市にそれぞれあり、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校(坂出)のすべての校種が揃っています。

高松地区においては、学校種に基盤を置いた新教科の開発等、先導的・先進的教育実践研究を推進し、「総合的学習の時間」などの新設に貢献してきました。一方の坂出地区では、幼・小・中・特別支援の4校が合同運動会や共同研究を行うなど、全国に先駆けた積極的な連携を進めており、その成果が注目を集めています。

特別支援学校は小学部・中学部・高等部があります。知的障害を有する児童生徒の自立と社会参加をめざして、小学部から高等部までの12年間にわたる個に応じた一貫教育を行い、保護者と共働して支援等の先進的な取り組みをしています。また、附属坂出中学校の隣接地には特別支援教室「すばる」の施設があります。学習障害(LD)、注意欠陥／多動性障害(AD/HD)等の特別な教育的ニーズのある県内の幼児、小・中学生に対し、アセスメントと個別の指導計画による先導的な実践研究に取り組んでいます。



6つの附属学校園と特別支援教室



附属高松小学校

本校では教科学習と創造活動という2領域カリキュラムを構想し、指導と評価の具体を積み上げてきました。本年度は子どもの育ちに着目し、子どもの表現を継続的に見取ることを繰り返しながら、新たなカリキュラムの方向性を模索していきたいと考えています。



附属坂出小学校

毎年11月に行う「附小フェスタ」は、学級の児童、保護者、担任が共に活動する参加体験型のイベントです。総合的な学習にかかわる内容で、写真は5年生のうどん作りです。様々な地域のうどんを作り、味わいました。



附属高松中学校

研究開発学校の指定を受け、創造表現活動を中心とした新しい教育課程の構築を目指しています。教科学習の充実とともに、生徒を中心に据え、一人の学習者をどのように育成するのかについて研究をすすめています。



附属坂出中学校

様々なことに興味をもち、自ら課題を見つけ、解決に向けて考え続ける「自立した学習者」の育成を目指しています。総合学習では、教科での習得・活用と総合での探究とをつなぐ「シャトル」、異学年グループで自由な探究活動を行う「CAN」があります。



附属特別支援学校

子どもの「主体的な社会参加」を目指して、小学部は「日常生活の自立」、中学部は「集団生活の自立」、高等部は「社会生活の自立」を目標に日々実践を重ねています。また、運動会やふれあい祭りなどの行事を通して、地域の方々や小学生と笑顔で交流を深めています。



附属幼稚園

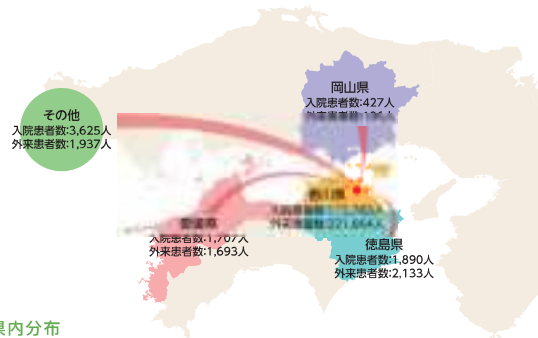
「つながる」をテーマに、子どもの生活づくりを支える研究実践をしています。人、もの・こと、自分自身とのつながりをもちながら、自分の世界を広げていく子どもが、自己表現していく嬉しさ、楽しさ、満足感を心に溜め込んでいく生活を大切にしています。



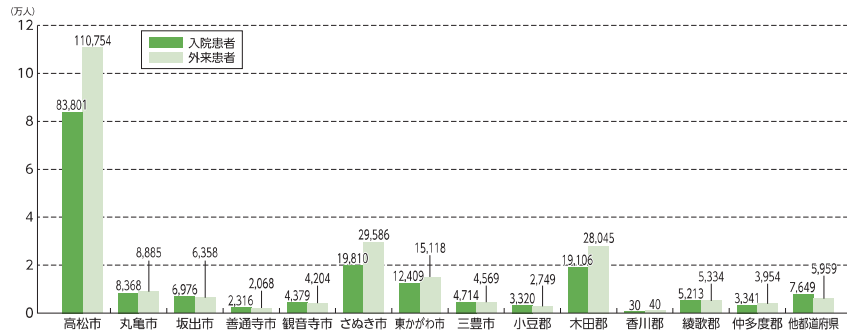
特別支援教室「すばる」

保育所・幼稚園・小学校・中学校の通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある子どもを対象に、教科学習および社会性育成等について個別指導を実施します。また、その保護者や担任を対象に教育相談を行います。

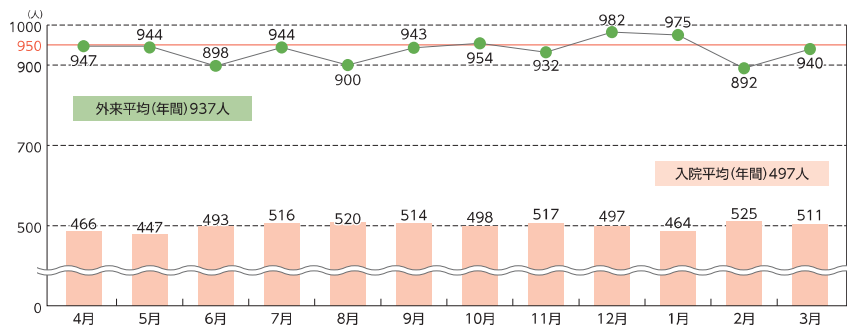
■県別来院患者状況



■入院・外来患者の県内分布



■入院・外来1日平均患者数(月別)



■救急患者の受入状況

外来患者	入院患者	計
1,918	1,902	3,820

■手術件数

点数分類別	0~4,999	5,000~19,999	20,000点以上	計
件数	1,086	2,414	4,062	7,562

■分娩件数

正常分娩		異常分娩		計
成熟児	未熟児	成熟児	未熟児	
340	57	147	64	608

■処方せん調剤枚数等

区分	調剤枚数	中心静脈注射無菌調剤件数	服薬指導件数	外来薬剤情報提供枚数
枚数・件数	108,898 外来 6,435 入院 102,463	3,190	12,886	3,674

■診療科別病床数及び患者数

診療科	病床数	入院患者		外来患者	
		延数	1日平均	延数	1日平均
内分泌代謝内科	10	2,936	8.0	8,902	36.6
血液内科	15	4,851	13.3	3,250	13.4
膠原病・リウマチ内科	16	5,633	15.4	10,669	43.9
呼吸器内科	15	5,146	14.1	3,483	14.3
循環器内科	24	7,367	20.2	6,543	26.9
腎臓内科	11	3,776	10.3	4,968	20.4
抗加齢血管内科	4	754	2.1	1,186	4.9
消化器内科	43	12,636	34.6	13,700	56.4
神経内科	10	3,962	10.9	8,314	34.2
総合内科	2	631	1.7	3,049	12.5
腫瘍内科	5	1,715	4.7	3,293	13.6
皮膚科	7	1,991	5.5	8,214	33.8
精神科神経科	11	3,751	10.3	10,536	43.4
小児科	24	10,555	28.9	12,473	51.3
周産期科女性診療科	59	18,561	50.9	13,021	53.6
心臓血管外科	12	3,975	10.9	680	2.8
消化器外科	33	11,714	32.1	4,824	19.9
呼吸器外科	27	8,254	22.6	3,688	15.2
乳腺内分泌外科	10	2,821	7.7	5,563	22.9
小児成育外科	6	1,645	4.5	2,248	9.3
整形外科	55	17,799	48.8	14,415	59.3
形成外科・美容外科	18	4,108	11.3	4,401	18.1
泌尿器・副腎・腎移植外科	25	8,192	22.4	11,375	46.8
脳神経外科	29	9,709	26.6	5,264	21.7
眼	32	10,842	29.7	24,082	99.1
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	23	8,988	24.6	11,702	48.2
放射線診断科	1	36	0.1	342	1.4
放射線治療科	—	—	—	8,633	35.5
麻酔・ペインクリニック科	1	29	0.1	2,658	10.9
救命救急センター	22(20)	6,617	18.1	843	3.5
歯・顎・口腔外科	10	2,438	6.7	15,304	63.0
共通等	53	—	—	—	—
計	613	181,432	497.1	227,623	936.7

*1) 病床数は年度中に変動があるため、H29.3.31時点での病床数を表記している。*2) 救命救急センターについては、運用形態の病床数を()表記している。

■臨床検査件数

検査名	検査件数
一般検査	14,325
血液検査	375,312
生化学検査(1)	1,764,249
生化学検査(2)	80,469
免疫血清検査	169,116
微生物検査	77,592
生理機能検査	30,120
機能検査	531
薬物分析検査	3,656
輸血検査	23,213
臨床検査数	2,538,583

■放射線検査・治療患者数

検査名	検査件数
単純撮影	45,920
造影撮影	3,571
血管撮影	1,445
コンピュータ断層撮影(CT)	17,914
磁気共鳴画像検査(MRI)	7,708
体外計測	1,261
PET	2,637
放射線治療	9,740
位置決め	566
放射線検査患者数	90,762

■病理検査件数

検査名	検査件数
組織検査	5,945
細胞診検査	5,507

図書館

読書はあなたの未来を豊かにします。
図書館はひとり一人の学習を支援します。

香川大学図書館は、学生が必要とする学習資料(冊子資料・電子資料)を備え、学生自らが修学する設備を備えた総合大学図書館です。

地域にも公開し、展示会や講演会を通じて、生涯学習支援をしています。



学生の学習支援

- 1 文学・文芸作品の積極的な収集を通じて、学生に読書への関心を抱かせ、読書を通じて生きる力を養ってもらうための活動を行っています。
- 2 香川大学図書館はEU(欧州連合)に認められた公式の情報センターです。毎年、EU代表部などと協力して、EUを知ってもらう活動を行っています。
- 3 レポート作成や自学自習に必要なさまざまな分野の専門図書・参考書を置いています。利用のご相談はカウンターまでお越し下さい。

図書館活動の特徴

香川大学図書館は、学生・地域・EUとのつながりに焦点をあてた活動を重点的に行っています。

- 1 読みたい本・関心のある本をキーワードで探せます。
- 2 コンピュータを使って欲しい情報を探すことができます。
- 3 辞書や参考資料を使って、調べものに役立てられます。
- 4 四国新聞のほかにも全国紙や新聞DBをそろえています。
- 5 パソコンルームや無線LANを使って、先生や友達とも情報交換ができます。
- 6 関心のある本を図書館で読んだり、無料で最大2週間も借りられます。



図書資料展示



ラーニングコミュニティ

蔵書冊数

平成29年4月1日現在

	図書(冊数)			雑誌(種類数)		
	和文	欧文	計	和文	欧文	計
中央館	423,265	172,174	595,439	9,930	3,568	13,498
医学部分館	79,550	59,112	138,662	1,283	1,493	2,776
工学部分館	21,404	5,899	27,303	464	232	696
農学部分館	70,853	30,699	101,552	4,305	1,717	6,022
計	595,072	267,884	862,956	15,982	7,010	22,992

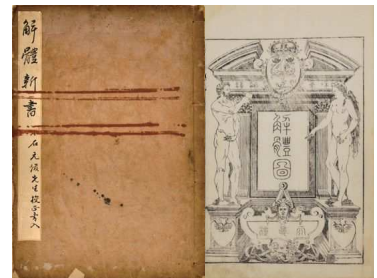
利用状況

平成28年度

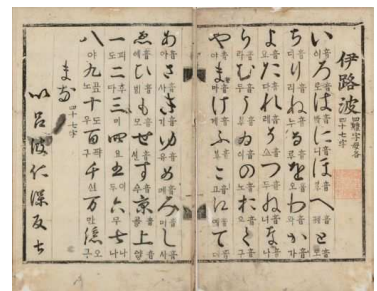
	貸出冊数(冊)				入館者数(人)	開館日数(日)
	教職員数	学生	学外利用者	計		
中央館	2,728	19,069	2,064	23,861	284,062	297
医学部分館	3,476	13,854	859	18,189	167,902	362
工学部分館	363	2,515	336	3,214	51,129	265
農学部分館	183	2,703	160	3,046	36,742	265
計	6,750	38,141	3,419	48,310	539,835	1,189

神原文庫

神原文庫は香川大学の初代・神原甚造学長が終生にわたって収集された蔵書コレクションです。昭和29年に、同氏が他界されたあと香川大学に引き継がれ、香川大学図書館で保存しています。神原文庫には、江戸時代後期から明治維新を経て、日清戦争にいたる前約100年間における、我が国が西洋先進諸国の文化や言語を取り入れて、急速に近代化していった足跡となる資料が数多く含まれています。



解体新書(小石元俊校正書入)
[寛政10年(1798)]



伊呂波 朝鮮版
[弘治5年(1492)刊]

博物館

香川大学博物館は、香川大学と地域との連携を文化面から深めるために以下の理念と目標を持って平成19年4月に設置され、平成20年4月に幸町北1号館1階に開館しました。展示室、収蔵庫、実習スペースを備え、延床面積約250㎡です。



- 1 香川大学の教育・研究によって蓄積された数万点に及び標本・資料・発明品などの知的財産の収集・保管・研究活動に重点を置きます。
- 2 香川大学における教育・研究の成果を活かし、地域の自然や文化を研究する市民研究者や郷土史家、小中高の教員、学芸員、サイエンスボランティアなどの研修や交流の場としての「教育・研究型」博物館です。
- 3 香川大学の教職員がその専門的な知識や経験を活かして、香川県全域に展開するさまざまな博物館・資料館、及び歴史、地理、生物、地学、科学などに関する研究団体などの研究活動を支援する「地域密着型」博物館です。

常設展示 (展示物は変更されることがあります。)

■教育学部

- ・国分台遺跡の含火山灰土と旧石器
- ・北投石
- ・瀬戸内海産貝類標本
- ・オキゴンドウ骨格標本
- ・ミニコンピュータ「OKITAC-4300」

■法学部

- ・英国単語圖解 市川央坡2巻明治5～7刊

■経済学部

- ・農学部遺跡出土弥生土器
- ・農学部遺跡水田足跡剥ぎ取り標本

■医学部

- ・ワイヤーガイドナイフ
- ・脳梁欠損マウス

■工学部

- ・地球史七大事件の岩石
- ・長尾断層剥ぎ取り標本
- ・摩擦試験機
- ・ワンボードマイコン「TK-80」
- ・陰極線管
- ・ヘリウム(He)ネオン(Ne)レーザーの発振管

- ・YAGレーザー励起の色素レーザー
- ・香川発超小型人工衛星初期模型

■農学部

- ・里山の生物相の変遷
- ・香川大学オリジナルワイン「ソヴァジョーヌ・サヴルーズ」
- ・香川県初のオリジナル酒米「さぬきよいまい」

■希少糖研究センター

- ・世界で最初に大量生産に成功した希少糖とその分離装置

利用状況

平成28年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入館者数(人)	54	77	364	477	482	147	278	395	86	37	259	43	2,699
利用者数(人)	54	77	364	660	626	219	278	684	86	37	317	43	3,445
開館日数	20	18	21	10	14	17	16	19	13	18	17	19	202

平成28年度主な活動

- 第17回企画展「ハチの世界」(7月21日～8月27日、入場者920人)
- 第18回企画展「刷り物でみる金毘羅信仰」(10月27日～11月26日、入場者467人)
- 特別展「パンチを予見する男 福田直樹写真展」(2月3日～2月18日、入場者205人)
- ミュージアム・レクチャー(全11回、参加者474人)
- 高大連携推進事業:「自然史研究リーダーの養成によるフィールド研究志向高校生のリクルート」(参加校8校、参加者58名)
- 高松市こども未来館科学体験ひろば:「化石レプリカを作ろう」(参加者190名)



第17回企画展「ハチの世界」



第18回企画展
「刷り物でみる金毘羅信仰」



特別展
「パンチを予見する男 福田直樹写真展」



第48回ミュージアム・レクチャー
「ミツバチをみてみよう」



高大連携推進事業
「自然史研究リーダーの養成による
フィールド研究志向高校生のリクルート」

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構



香川大学では、平成28年4月1日に「四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構」を創設しました。機構は「危機管理先端教育研究センター」と「地域強靱化研究センター」で構成されています。「危機管理先端教育研究センター」には、「先端教育プログラム開発部門」、「人材教育部門」、「減災基礎研究部門」を設けて、レジリエンスサイエンスの教育研究、人材養成を行います。また、「地域強靱化研究センター」には、「地域連携部門」、「減災応用研究部門」を設けて、レジリエンスサイエンス / エンジニアリングに基づく防災・減災技術開発並びに四国の防災・減災拠点としての機能強化に努めます。さらに、両センターの共通部

門として、「大学間連携部門」、「国際連携部門」を設けて、国内外の大学並びに研究機関と防災・減災・危機管理分野における教育・研究連携を推進します。

国際希少糖研究教育機構



香川大学では、「希少糖研究」を戦略的な重点事項と位置付け、その研究を今まで以上に効率的に推進することができるよう、平成28年4月1日に新たな全学体制の研究推進組織として「国際希少糖研究教育機構」を設置しました。

希少糖研究発祥の地である香川大学。国際希少糖研究教育機構では、希少糖生産研究の強化と、50種類以上あり、それぞれの機能特性が異なる希少糖の用途開発において、これまで育んできた産学官体制をより強化し、さらに国際的な連携を充実させて、希少糖研究・実用化に向けたグローバルな展開を目指します。

国際希少糖研究教育機構は、希少糖研究に関する世界一の知の集積・グローバル生産拠点となり、希少糖研究を通じてイノベーションマインドを育む教育を実践するための基盤となります。



大学教育基盤センター



大学教育基盤センターは、本学における教育の質的向上を図るために、学士課程教育の基盤である全学共通科目と、学部を越えた全学的な教育プログラムの開発・運営、留学生の教育および日本人学生留学支援、教職員の能力向上に関わる取組みの企画・運営等を行っています。

上記の目的を果たすべく、センターには、全学共通教育の企画・運営を担う「共通教育部」、全学共通教育のカリキュラム開発および学部を超えた全学的な教育プログラム(ネクストプログラム等)の開発を行う「調査研究部」、教職員の能力向上のための取組みを統括する「能力開発部」、新たな外国語教育のカリキュラムや授業方法を提案するとともに、外国人留学生の

日本語教育、留学希望の日本人学生の学習をサポートする「国際教育部」、フィールドワーク型授業の充実などを通じて、地域理解の取組みを促進する「地域教育部」、ICTを活用した遠隔教育の実施、e-Learningコンテンツ(オープンコンテンツを含む)の作成、アクティブラーニングの促進を支援する「ICT教育部」が置かれています。

アドミッションセンター

アドミッションセンターは、更なる少子化を迎えるにあたり、地域ニーズに配慮した多様な判定基準に基づく入試方法の開発を目指すとともに、効率的な入試体制を構築するための調査研究を行うため平成17(2005)年4月に設置されました。さらに、新たな受験生の獲得に向けた戦略的な入試広報活動を展開するための入試広報の中心組織としての役割を担う部署としても機能しています。その一環として、平成21(2009)年4月から関西地区における入試広報の強化のため「サテライトオフィス大阪」に特命助教1名を配置しました。



当センターは、アドミッションポリシーに応じた志願者確保ならびに入学者選抜を実施するため、以下の業務を実施しています。

- ① 入試に関する調査・研究(入学者選抜方法等の改善のための活動)
- ② 戦略的な入試広報の企画・立案・実施(入学者の質的・量的向上のための活動)
- ③ 各学部に対する入試状況等の説明並びに募集戦略と選抜方法等の提言(学部の入学者選抜・広報活動等の支援活動)

学生支援センター

学生支援センターは、学生の個別性と多様性に配慮しつつ、教育的・成長促進的視点に立ち、全学的立場から学生支援活動の充実発展に寄与することを目的として平成27年5月1日に設置され、さまざまな学生支援を一元的に行っています。

学生支援センターの主な業務は

① 学生生活支援部門

授業料免除や奨学金等の経済的支援、学生寮や保険関係の生活支援、学生生活の相談等

② 学生活動支援部門

学生の自主的活動(課外活動、学生プロジェクト活動)、大学祭等の学内行事開催などの活動支援

③ バリアフリー支援室

障害のある学生や障害のある学生を担当する教職員、および障害のある学生を支援する学生に対する支援



▲学生支援センター



▶バリアフリー支援室

キャリア支援センター



キャリア支援センターは、在学期間を通じて、生き方・進路・職業選択を考えながら、人生の目標を持って学生生活を送ることができるよう支援していくこと、及び、希望する進路を実現できるように、学生への就職支援を充実させていくことを目的として、平成18年4月に設置されました。

主な業務は、(1)就職支援事業の企画・実施に関すること、(2)インターンシップの企画・実施に関すること、(3)就職相談に関すること、(4)キャリア教育の企画・実施に関すること、(5)キャリア支援に係る学部、研究科等との連絡調整及び支援に関すること、等です。

施設

生涯学習教育研究センター

生涯学習教育研究センターは、大学公開講座、高等教育レベルの生涯学習に関する研究・調査、地域社会における生涯学習指導者の養成・教育、生涯学習に関する情報の提供・相談を行う施設です。

本センターの前身である大学教育開放センターは、本学の研究・教育活動を地域社会に開放するため昭和53年に設置されました。そして平成3年、大学教育開放センターは、地域住民及び地域社会の生涯学習要求の高まりに対応するため、生涯学習教育研究センターに改組されました。

本センターは、毎年、文学、文化、芸術、スポーツ、教育、法学、経済学、医学、工学、農学等の多様な分野にわたる約40の公開講座を行うとともに、地域社会及び大学における生涯学習のあり方に関する研究・調査の成果を、毎年度発行する『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告』を通して公表しています。本センターは、こうした活動を通して本学の研究・教育の成果を地域社会に開放する上で重要な役割を果たしています。



四国グローバルリーガルセンター



四国グローバルリーガルセンターは、四国ロースクールで培った教育のノウハウをもとに、様々な組織と連携・協力しながら法学教育をサポートし、地域に貢献していく活動を推進することを目的として設置されました。同センター内には、法実務教育を活かした地域貢献機能を果たすオリーブ総合法律相談所が設置され、資力のない人々や法律問題を抱える四国の地域住民に対する無料法律相談や離島での法律相談を実施し、法律相談等の実践的な訓練の教育の場を提供します。四国全域の企業や公共団体等と連携し、地域社会に必要なセミナーの開催等のリーガルサービスの提供に従事します。さらに、社会のグローバル化に対応すべく、国際的な法知識を持つ人材の育成をサポートしていきます。

総合生命科学研究センター

総合生命科学研究センターは、香川大学における生命科学分野の教育・研究の推進、およびその研究支援を行うことを目的に、2007年4月に設置されました。センターは、以下の部門からなり、教職員は、医学部キャンパスおよび農学部キャンパスで教育・研究、および研究支援活動を行っています。

遺伝子研究部門

ゲノム情報科学や高等植物の遺伝子を使った研究・教育を行うとともに、遺伝子実験に関する研究支援を行っています。

分子構造解析研究部門

タンパク質等の生体高分子の3次元構造を決定し、構造と機能との相関について研究を行っています。

実験実習機器部門

共同利用実験機器を維持管理し、高度分析装置の使用に関する研究支援を行っています。

動物実験部門

動物実験施設を管理運営し、実験動物の飼育管理、系統維持等、動物実験に関する研究支援を行っています。

放射性同位元素実験部門(医学部地区および農学部地区)

放射性同位元素実験施設を管理運営し、放射性同位元素実験の教育・研究支援を行っています。

糖鎖機能解析研究部門

糖質バイオクラスターの一環として糖鎖に関する研究を創出し、展開しています。



微細構造デバイス統合研究センター

微細構造デバイス統合研究センターは、平成17年4月に設置されました。本センターは、工学部がこれまで取り組んできた「マイクロ・ナノマシン技術」をベースに、マイクロセンサやマイクロアクチュエータ、バイオ分析用チップなどの様々な微細構造デバイスを開発しており、これらを成長が期待される医療・農業などの応用分野で用いることで、異分野のニーズとシーズを統合した分野横断的な研究開発を推進しています。

当センターの技術は、半導体シリコンや高分子材料、ガラス基板などの微細構造形成が可能なマイクロデバイス製造技術を基盤としています。本技術を用いて、従来にはない新しい機能や性能を実現する画期的なセンサやアクチュエータデバイスが数多く開発されており、幅広い分野でその応用技術の開発が進められています。

農学部や医学部等との学内連携はもとより、他大学や各種研究機関との共同研究などを通じ、これらの複合した領域におけるバイオメカ等の新しい研究を展開して、新たな学際的研究分野を切り拓いていきます。また、産学連携についても積極的に取り組み、要望されるものを実現するという立場で、特に地元企業を中心に技術移転や実用化開発に向けた支援を行い、地域の産業振興に貢献します。さらに、人材育成の場も提供し、学生を研究活動に参画させて先端分野における研究やモノづくりを体験させることで、世界に通用する人材の輩出を行います。



瀬戸内圏研究センター

瀬戸内圏研究センターは、瀬戸内圏の諸課題を解決するべく調査・研究を行い、その成果を地域社会に還元させ、地域の活性化を図るとともに、地域の財産である瀬戸内圏が育んできたその風土や豊かな環境を保全・継承させることを目的として、平成21年3月1日付けで設置されました。本センターは、瀬戸内圏に関する「知の総合拠点」となることを目指し、

- (1) 瀬戸内圏研究の推進
 - (2) 瀬戸内圏研究に関する情報の収集及び発信
 - (3) 瀬戸内圏研究に関する研究成果の公開
- などを行っています。



瀬戸内圏研究センター 庵治マリンステーション



本施設は、四国北端の庵治半島先端に位置し、自然の砂浜や岩礁帯といった自然環境に恵まれています。施設には、調査船「カラヌスⅢ」(19t)および「ノープリウスⅡ」(1.1t)が配備される他、研究用機器として各種海洋観測機器及び栄養塩、全窒素・リンなどの自動分析装置が備えられ、香川大学の海に関する教育・研究の前線基地となっています。本施設では瀬戸内海の環境問題、特に沿岸域の栄養環境と生物生産性、養殖漁場の海域環境、干潟を含めた浅海域の生態環境について調査・研究を行っています。

施設

総合情報センター

総合情報センターは、香川大学の学内共同利用施設の一つとして、学内情報基盤を担当すると共に、先進的な研究・教育拠点として大学と地域社会に貢献することを目指しています。

センターは学内のキャンパスや附属施設間だけでなく学外とも繋ぐネットワークの整備や管理を通じて、教育研究、大学運営、遠隔講義・会議、地域情報サービス等を支援する有線LANおよび無線LAN環境を提供しています。また、仮想化サーバなどを設置し情報サービスを直接ユーザに届けると同時に、各種サービスを可能とする基盤構築や運用支援を担当しています。各キャンパスのPC演習室には、総計500台以上の教育用PCシステムを設置し、全学における情報教育での活用をサポートしています。ICカードプリンタ導入によりエコロジーを考慮した環境を実現し、IT教卓による教育現場の情報化を図り、学生電子メールサービスの外部委託により優れたユーザ環境を準備しています。



社会連携・知的財産センター



社会連携・知的財産センターは、大学と地域企業等との共同研究を促進するため、また知的財産を有効に活用した社会貢献を促進するため、旧地域開発共同研究センターと旧知的財産活用本部の統合により、平成20年4月に設置されました。

センターの主な業務は、

- (1) 民間企業等との共同研究又は受託研究の振興
- (2) 民間企業との共同研究や受託研究の契約手続き
- (3) 民間企業等に対する研究開発等の技術相談、技術交流等の支援
- (4) 民間企業等への学術情報の提供
- (5) 知的財産の創出・権利化・維持管理
- (6) 知的財産の活用による産学官連携の推進
- (7) 特許権等の実施許諾
- (8) 事業化しうる研究成果の発掘・評価・選別 等です。

大学連携e-Learning教育支援センター四国



大学連携e-Learning教育支援センター四国は、「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」事業の母体として四国国立5大学で構成された組織です。

本センターは、既に構築・運用されている大学連携に基づくe-Learning基盤を活用して「四国地区における5国立大学連携構想」の中の大学教育を共同実施することによって、連携大学全体の教育の質の向上を図ります。動き出したばかりのセンターですが、大学教育を共同実施に対する様々な期待に応えるべく邁進して参ります。

インターナショナルオフィス

インターナショナルオフィスは、香川大学における国際交流の窓口機関として、情報収集及び発信を一元化すると共に、国際戦略の構築並びに教育研究などの国際的な連携、学内の各組織の有機的な連携、地域の国際交流・協力活動との連携を推進することで、本学並びに地域の国際交流を推進することを目的としています。

インターナショナルオフィスには、この目的を達成するために、国際研究支援センターと留学生センターが設置されています。

国際研究支援センター

国際研究支援センターは、国際的な研究交流の支援及び大学としての国際化方針に基づく戦略の実施について中心的な役割を果たし、本学における国際的な学術交流の推進に寄与することを目的とし、(1)国際共同研究及び国際展開プロジェクトの企画・開発及び推進、(2)海外の研究機関との研究者交流の支援、(3)海外教育研究拠点校との学術交流の支援など幅広く担っています。



本学の海外教育研究拠点校



香川大学・チェンマイ大学合同シンポジウム



留学生センター



留学生センターは、本学に在学する外国人留学生及び海外留学を希望する学生に必要な教育及び、指導助言を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的とし、全学的な見地から指導援助体制の充実を図るとともに、留学生に関する調査・研究活動や情報提供、地域社会における学生の国際交流活動の推進を担っています。

保健管理センター

保健管理センターは、本部(幸町南キャンパス)、医学部分室、工学部分室、農学部分室からなり、学生及び教職員の心身の健康増進や健康管理を目的として、定期健康診断、健康教育、応急処置、健康相談、心理相談など、広く健康支援活動を行っています。センターでは医師、臨床心理士、保健師による学生・教職員への「こころとからだの健康相談」を実施しています。



学長戦略室

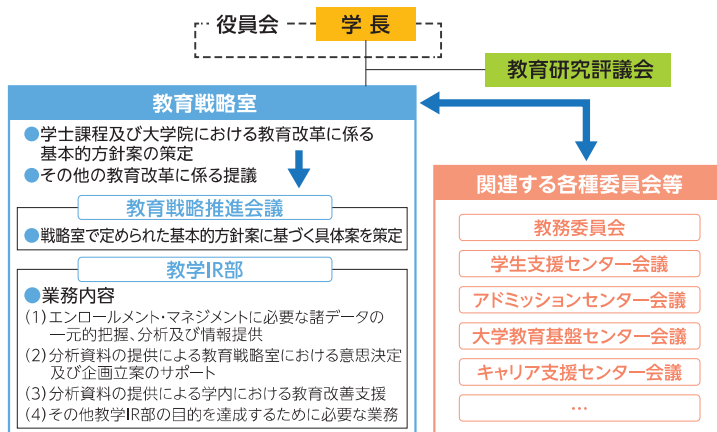
学長戦略室は、学長が戦略的な大学運営を実施するにあたり、調査に基づく支援、施策の基本構想等を策定することを目的として設置しました。教育研究、大学運営に関する情報収集、調査、分析及び評価並びにその発信とともに、これらに基づく諸施策の企画立案及び改善策等の策定提言を行います。

教育戦略室

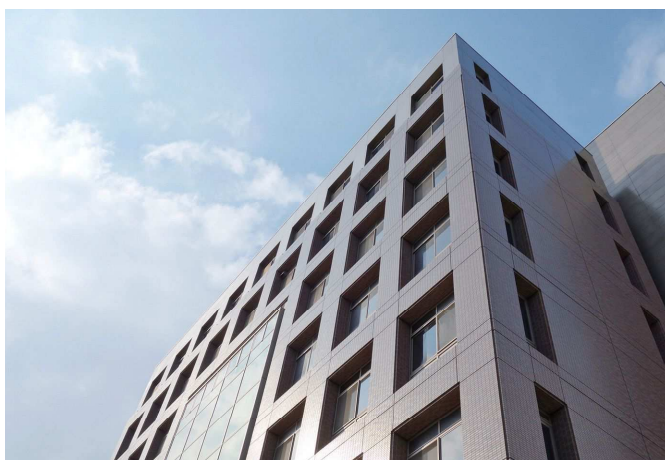
教育戦略室は、香川大学における教育水準の向上及び香川大学における特色ある教育を推進することを目的として、平成26年4月に設置されました。

主な業務は、

- (1) 学士課程及び大学院における教育改革の基本方針案の策定
- (2) その他の教育改革に係る提議 等です。



研究戦略室



研究戦略室は、本学における研究水準の向上及び特色ある研究を推進するための組織です。ここに学内外の研究者等から構成される研究戦略会議を設置し、先導的・中核的な研究の推進、研究推進戦略の審議、国内外の研究情報の収集や分析、科学研究費助成事業など各種研究プログラムへの申請支援を行っています。さらに、リサーチアドミニストレーターを配置して、本学研究者の研究活動をサポートしていきます。

※リサーチアドミニストレーターとは、大学等において、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事するスタッフです。

地域連携戦略室

地域連携戦略室は、全学的な地域連携に関し、戦略的方針を定め、その推進に向けてコントロールタワーの役割を担います。本学が取り組む地域貢献を全学的に推進するため、地域ニーズの吸い上げとともに、本学の有する教育・研究シーズとのマッチングを図ります。多様化、複雑化する地域課題に対して、自治体との緊密な連携のもと、その解決に向けた提言や地域活性化への協力についてコーディネートを行います。これらの取組に資する研究調査、全国の域学連携の先進事例や地域活性化の推進事例等の収集・分析を行います。

また、学部・研究科・センターの代表からなる地域連携戦略会議を設置し、学内の地域連携活動と情報共有の円滑化を推進します。



施設

広報室



広報室は、香川大学における教育研究、地域貢献及び大学法人の運営状況等本学の活動及び運営全般に関する情報を学内外に広く公開することを目的としており、平成25年4月に広報センターから広報室に改組されました。主な活動としては(1)広報誌の作成(2)ホームページの運営(3)報道関係機関への情報提供及び対応等を行なっています。運営にあたっては、学内外の委員から成る運営諮問委員会を設置し、当該委員会の意見を取り入れながらより幅広くきめ細かな広報を推進していきます。

場所は、大学本部1Fに入ってすぐのところであり、室内では大学案内、各種パンフレット、入学願書等を配布しています。平日9:00～17:00のオープンで、どなたでもご自由にご利用いただけます。

大学評価室

本学における教育、研究のさらなる質の向上と適切な法人の運営に資するために、自己点検・評価を行うとともに、評価結果の各部局等への還元及びその改善努力を支援することを目的とし、平成23年4月に大学評価室を設置しました。

大学評価室の業務及び組織

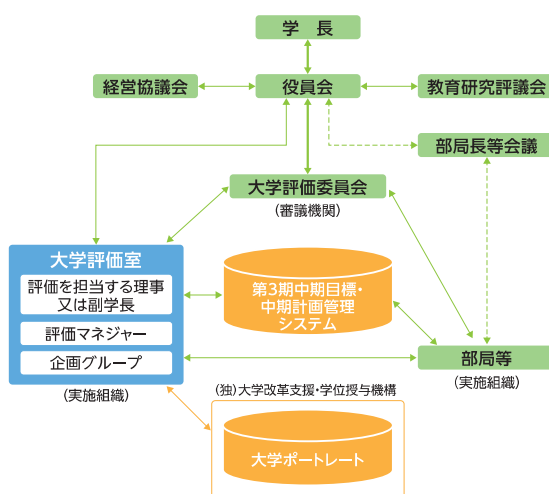
【業務】

- 自己点検・評価の方針に係る企画及び立案
- 自己点検・評価の実施及び対応
- 自己点検・評価に係る情報の収集及び分析
- 自己点検・評価に係る広報活動
- 自己点検・評価結果の各部局等への還元及び改善努力の支援
- その他大学評価室の目的を達成するために必要な業務

【組織】

室長 評価を担当する理事又は副学長
 評価マネージャー 室長が指名する教員数名、企画グループリーダー
 室員 企画グループ

大学の評価活動を展開するための組織体系



男女共同参画推進室



男女共同参画推進室は、香川大学における男女共同参画の推進を図り、すべての教職員・学生が多様性を認め、支え合い、各自の能力・意欲を十分に発揮できる環境を整備することを目的としています。主な活動としては、①男女共同参画の意識の醸成・啓発 ②育児・介護等の両立支援 ③大学間連携・地域連携 ④女性研究者キャリア支援に関する情報発信と各種の取り組みです。

推進室は、北5号館1階にあり、男性・女性・学生・教職員、どなたでもご利用いただけます。室内には閲覧用の各種リーフレットや書籍を設置しているほか、妊産婦の方の休憩室や一時託児室としてもご利用いただくことが可能です。香川大学の全構成員がいつも笑顔でいられることを目指し、取り組んでいます。

施設

教育学部附属教職支援開発センター



教育学部附属教職支援開発センターは、実践的指導力の向上及び教職支援体制の充実のため、学部と附属学校園、香川県教育委員会等と連携・協働して、実地教育及び教職支援、教育開発の推進的役割を果たすことを目的として活動しています。

本センターは、実地教育推進部門、教職支援推進部門、教育開発推進部門の3つの部門から構成されています。そして、それぞれの部門において、①教育実習を軸に、1年次から4年次までの4か年を見通した実地教育の推進、②教職志望学生への支援(日常の支援・教採への支援・相談活動等)や現職教員への支援(研究交流会・講演会の開催・相談活動

等)など教職支援の推進、③附属学校園や県市教育関係機関との連携・協働による教育開発に関する研究の推進を行っています。

農学部附属農場

附属農場は学生への農場実習教育と教職員の研究そして経営の3相を持っています。当農場は昭和33年に設置されたのち幾多の変遷を経て、現在は作物栽培、畜産、果樹及び蔬菜花卉の4部からなっています。

総面積(約17ha)の大部分を占める傾斜地では、その特性を生かした家畜飼養、茶樹及び果樹栽培を、また、平地では施設利用の園芸作物栽培と水稻栽培を行い、実習教育に加え大学院生を含む学生の専攻指導もしており、実験室的なものから近年重要性を増しているフィールドサイエンスまでの多様な研究を行っています。



サテライトオフィス

本学における地域貢献の一環として、平成24年度に香川県内の3か所(三豊市、東かがわ市及び坂出市)にサテライトオフィスを開設しました。西讃から東讃までそれぞれのサテライトオフィスを拠点とし、教育・研究の成果を発表する場、地域の方々との顔の見える交流の場及び地域の方々の生涯学習を支援する場として、地域住民と本学職員・学生の交流などを通して、地域の活性化に貢献することを目指しています。平成26年度には、三木町にもサテライトオフィスを開設し、講座を実施しています。



出前講義の様子



学生による演劇公演



デッサン教室での一コマ



オープニングセレモニーの様子

香川大学サテライトオフィス

講義は公共施設の一室を利用して行われています。

魅力あるセミナーの提供

●セミナー

- ・幅広い教養講座
- ・医療・健康講座
- ・地域連携講座
(地域課題への取組成果報告)

活気あるイベントの支援

●イベント

- ・音楽コンサート
- ・科学体験教室
- ・学生サークルの発表
(ぬいぐるみ病院・手品等)

地域連携に関する協定等の締結

●包括協定

- ・地域の様々な課題に対応するために自治体と結ぶ包括的な協定

●覚書

- ・地域の生涯学習促進のための覚書



坂出市本町1-2-1



三木町大字氷上2940-1



三豊市豊中町本山甲192-1



東かがわ市湊1806-2